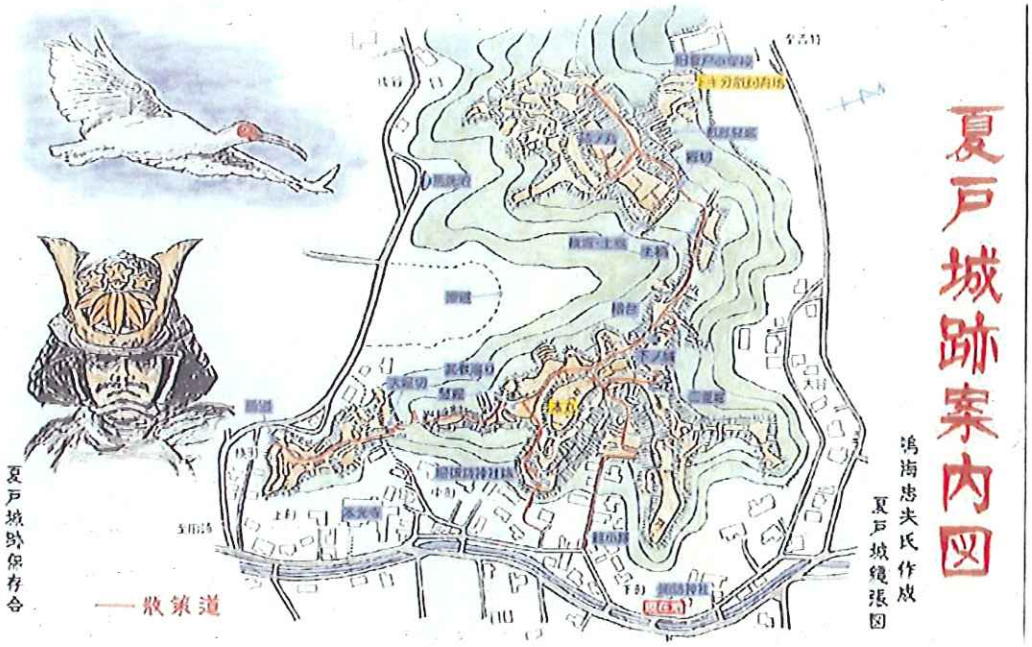
長岡市指定史跡

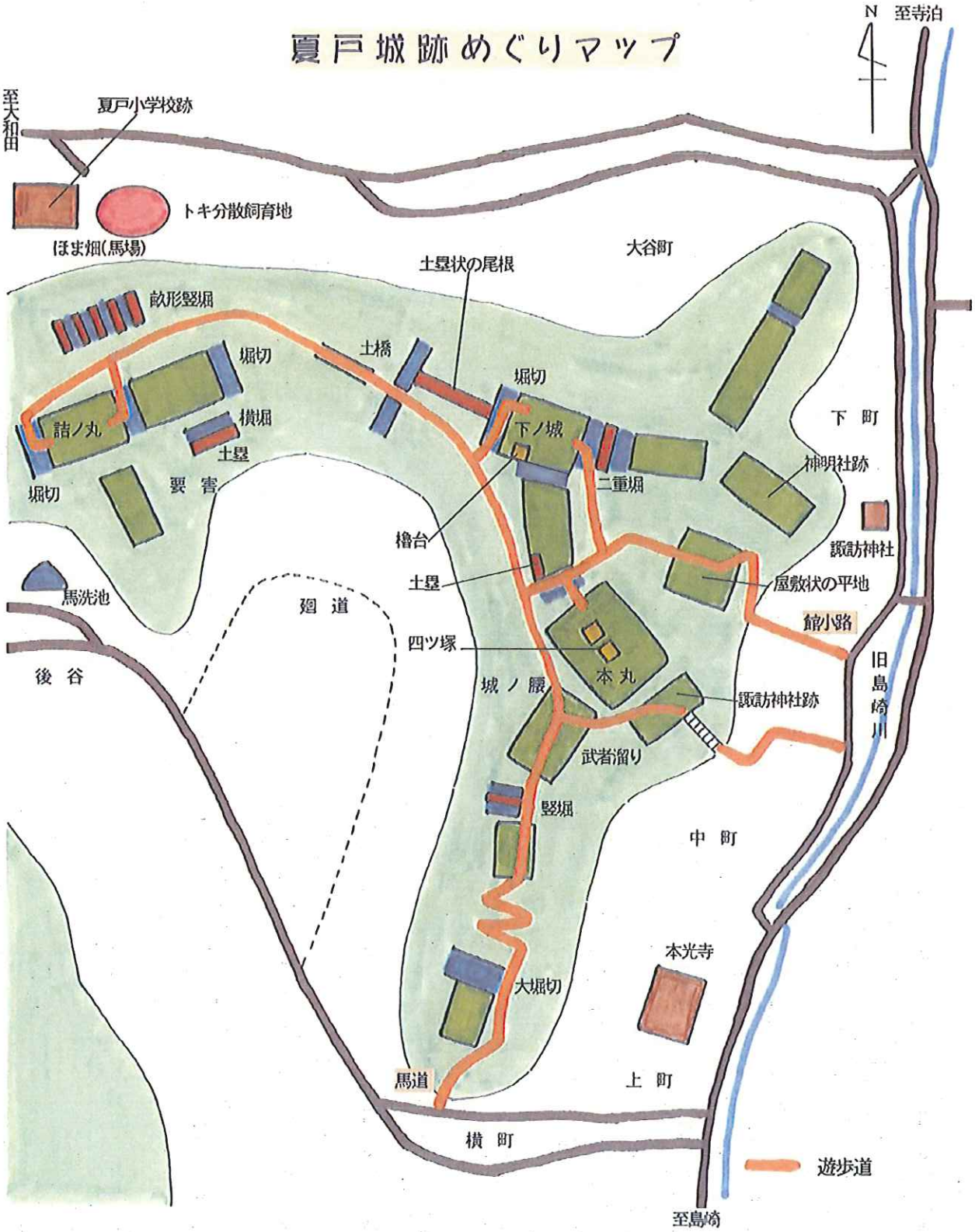
夏戸城跡めぐり



長岡市寺泊夏戸には、室町時代から戦国時代にかけて、上杉家の重臣として活躍した志駄氏の居城、夏戸城跡があります。今でも夏戸集落の裏山には、尾根を削ったり、掘り割ったりして造り出した曲輪(平地)や櫓台、土塁、堀切、横堀、竪堀、畝形竪堀、虎口(出入口)などがいたるところにみられ、限りないロマンを感じさせてくれます。城の規模は大きく、新潟県を代表する山城の一つで、長岡市の文化財(史跡)に指定されています。

夏戸城跡保存会では、大切な歴史遺産である夏戸城跡を保存し、後世に伝えていくため、平成21年に長岡市地域コミュニティ事業補助金を活用して、階段や手すり、案内板、標柱を設置するなど、城跡の整備を行ってきました。多くの人たちから、整備された夏戸城跡をめぐりながら、戦国時代のロマンに触れていただきたいと思います。

夏戸城跡めぐりマップ



☆館小路コース

諏訪神社→館小路→屋敷状の平地→本丸→二重堀→下ノ城・櫓台→堀切→土橋→堀切→横堀・土塁→詰ノ丸(所要時間　本丸まで徒歩約10分　詰ノ丸まで徒歩約25分)

☆馬道コース

馬道登り口→大堀切→竪堀→武者溜り→本丸→館小路コースに合流(所要時間　本丸まで徒歩約10分　詰ノ丸まで徒歩約25分)

夏戸城跡めぐり

☆館小路コース

夏戸城跡案内図(諏訪神社前)

館小路(たてこうじ)

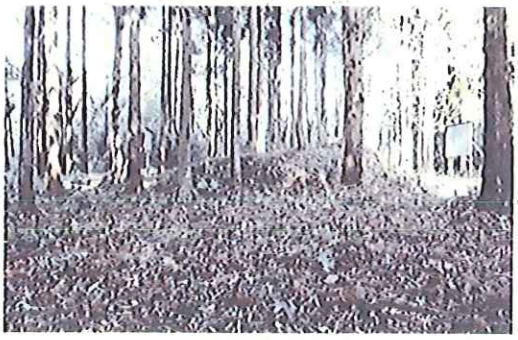
城主の館(やかた)から、本丸へ通じた大手道(おおてみち)です。館小路をはさんで、北側に下町、南側に中町・下町・横町という城下町にちなむ地名が残されています。

館小路を進むと、途中に屋敷状の平地があり、この先の急坂を登ると、左手に本丸、右手の奥に下ノ城がみえてきます。

館小路の近景

本　丸(ほんまる)

本丸は1000㎡以上もある広い曲輪(平地)で、城の中で一番重要なところです。戦(いくさ)の時、城主はここで指揮をとりました。

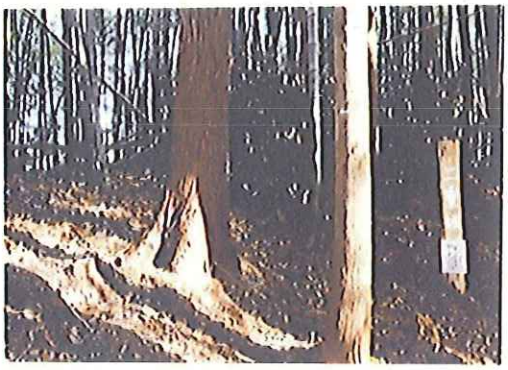


夏戸城の本丸

現在、本丸は「城ノ腰」と呼ばれています。ここに廃城の時、鎧(よろい)や兜(かぶと)を埋めたと伝えられる四ツ塚があります。

二重堀(にじゅうぼり)

下ノ城の手前(東側)に連続に尾根を掘り割った二重の空堀があります。この空堀は堀切と呼ばれる堀です。東側からの敵の侵入に備えていました。堀と堀の間には、土塁が築かれています



二重堀

下ノ城(しものしろ)・櫓台(やぐらだい)

下ノ城は本丸の下(しも)にあるので、このように呼ばれています。本丸の次に重要な場所です。隅に櫓台(やぐらだい)があります。

櫓台は敵の侵入を防ぐため、物見をした櫓が建てられていたところです。

下ノ城の櫓台

土　橋(どばし)

下ノ城から詰ノ城へ向かう途中に土橋があります。土橋は土の橋のことで、本丸・下ノ城と詰ノ丸を結んだ通路(道)として利用していました。

堀　切(ほりきり)

詰ノ丸の手前に尾根を深く掘り割った空堀(堀切)があります。この堀の底には、土

橋がみられます。

土　橋

横堀(よこぼり)・土塁(どるい)

堀切を南に進むと、横堀という横に掘った空堀があります。麓から攻め上がる敵を鉄砲や弓で射撃する陣地(じんち)です。

横堀の外側に土を盛って築いた土塁があります。土塁は敵の侵入を防ぐ防御施設(ぼうぎょしせつ)の一つです。

詰ノ丸(つめのまる)

詰ノ丸は、戦の時に最後に詰めたところです。夏戸城では、最も高い地点にあり、「要害」(ようがい)と呼ばれています。

北側の斜面に畝形竪堀(うねがたたてぼり)、周囲に堀切と竪堀を厳重に構えています。南側の中腹からは、清水が出ています。

夏戸城の詰ノ丸

☆馬道コース

馬道登り口

馬　道(うまみち)

南側から城へ登る道です。馬で武器や食糧を運んだ糧道(りょうどう)と考えられます。途中に曲輪(現在墓地になっている)や土塁、大堀切、竪堀がみられます。

大堀切(おおほりきり)

馬道の登り口から少し北に進むと、左手に尾根を大きく掘り割った堀切があります。夏戸城では最も大きな堀切で、底幅の広い箱堀という堀です。南側からの敵の侵入に備えていました。

東の麓には、良寛様とゆかりの深い本光寺(浄土真宗仏光寺派)があります。

大堀切

竪　堀(たてぼり)

武者溜り手前の左手(西側)に、竪堀という斜面に掘った空堀があります。敵の横への移動と麓からの攻撃に備えていました。この竪堀は、土塁をはさんで二重の竪堀となっています。

武者溜り(むしゃだまり)

竪堀から一段上がると、広い平地に出ます。戦の時に武者(武士)が集結した武者溜りです。武者はここで鎧や兜を身に付けて出陣(しゅつじん)しました。この上が本丸です。右に下ると、諏訪神社跡に出ます。

武者溜り

志駄氏の由来

志駄氏の系譜

源為義—義広[1](義憲)—義延[2]—義安[3]—秀義[4]—

義俊[5]—定重[6]—定義[7]—義英[8]—景秀[9]—義清[10]—房義[11]

—景義[12]—春義[13]—義時[14]—義秀[15]—以下略

志駄氏の祖　義広(義憲)

志駄氏の祖義広は、源氏の頭領源為義の三男で、平安時代末に常陸国(茨城県)信太荘に住んだことから志駄氏を名乗りました。平家追討で活躍しましたが、その後鎌倉幕府を開いた源頼朝と対立し、伊勢国(三重県)で頼朝方に敗れて戦死しました。

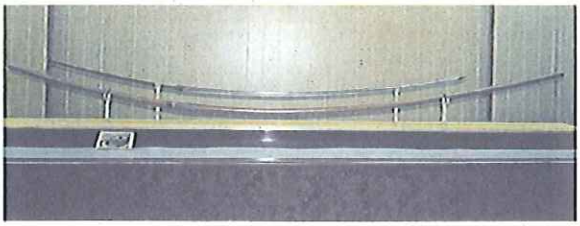
上杉家に従う　義安

義広亡きあと、2代義延は丹波国(京都府)で蟄居しましたが、3代義安は建長4年(1252)に上杉房重に従って鎌倉(神奈川県)へ赴きました。このように、志駄氏は早くから上杉家の家臣となっています。

弥彦神社に大太刀を奉納　定重

6代定重は、応永22年(1415)に弥彦神社へ大太刀を奉納しました。この大太刀は「志田の大太刀」と呼ばれ、備前国(岡山県)長船の刀工家盛の作です。長さ2.204m、反り9.4㎝で、表に「南無八幡大菩薩 右恵門丞家盛」、左に「南無唵摩利支天 源定重 応永廿二年十二月日」とあります。

弯刀では国内最長の太刀で、昭和4年に国宝、昭和25年に国の重要文化財に指定されています。現在、弥彦神社の宝物殿に展示されています。



志田の大太刀(弥彦神社蔵 『新潟県風土記』より転載)

守護から夏戸の地を賜る　景秀

9代景秀は、越後守護上杉房方から夏戸の地を賜りました。房方は永和5年(1379)もしくは翌6年から応永28年(1421)まで守護を在任していること、それに定重が応永22年に弥彦神社へ大太刀を奉納していることなどから、志駄氏は応永年間(1394～1428)ころ夏戸へ入り、集落の裏山に夏戸城を築いたものと考えられます。

夏戸城跡の遠景(北側より)

西浜口で戦う　房義

11代房義は、享徳2年(1453)に守護上杉房定と三条長尾氏の長尾実景とが戦った西浜口(糸魚川市)の合戦に房定方として出陣しました。房義はこの合戦で功労があったため、房定から感状を賜っています。感状は長岡市の文化財に指定されています。

志駄氏の所領地

明応6年(1497)、12代景義は家督と所領地を春義に譲りました。この時、志駄氏の所領地は、古志郡吉竹・夏戸・北曽祢(長岡市寺泊地域)と頸城郡夷守郷内三分一(上越市頸城区)の4か村でした。当時、三島郡は西古志郡と呼ばれていました。

為景・謙信に仕えて活躍　春義

13代春義は、永正4年(1507)に守護代長尾為景(上杉謙信の父)が守護上杉房能を追放したことによって始まった永正の乱で、為景に味方して活躍しました。この乱は、越後国の戦国時代の幕開けといわれています。春義は永禄5年(1562)の上杉謙信の関東出兵に出陣し、私西城(埼玉県)の攻略後、同城の城将を務めました。

川中島の合戦で討死　義時

14代義時は、直江酒椿斎親綱の娘を妻とし、直江家の一族になりました。永禄4年(1561)の第4次川中島合戦に出陣し、謙信の御眼前(目の前)で壮烈な死をとげました。

最後の夏戸城主　義秀

15代義秀は、永禄3年(1560)に生まれました。父は義時、母は直江酒椿斎の娘です。母は義秀を生むと間もなく亡くなり、父も翌4年の川中島の戦いで戦死したため、義秀は直江家で育てられました。義秀もまた直江家の娘(養女)を妻としています。その後、義秀は直江氏支配の与板衆として活躍してゆきます。

天正6年(1578)に始まった御館の乱では、上杉景勝方の直江信綱が守る与板城(長岡市与板地域)に立て籠もり、景虎方からの攻撃を撃退するなど、目覚しい働きをしています。文禄4年(1595)には、兼続から庄内(山形県)の金山代官を命じられました。

慶長3年(1598)正月、景勝が会津(福島県)に国替えを命じられると、義秀は酒田城(山形県)5100石の城代となりました。同5年の長谷堂合戦では、最上川をさかのぼって最上領へ侵攻し、谷地城・寒河江城(山形県)を攻略するなどして活躍しました。のちに、義秀は政務奉行職など、上杉家の要職を務めましたが、寛永9年(1632)に米沢(山形県)で亡くなりました。墓は米沢市の善光寺にあります。

志駄義秀公の墓(米沢市善光寺)

夏戸城にまつわる民謡・伝説

夏戸扇おけさ

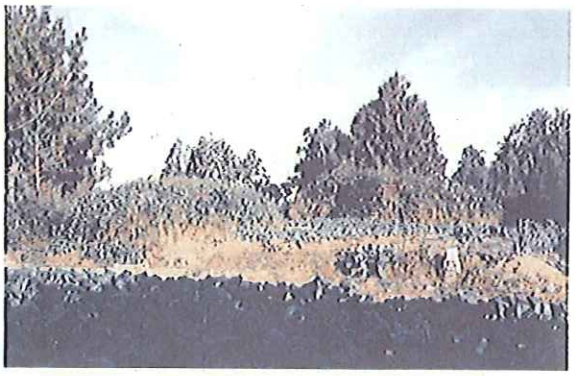
夏戸集落には、日の丸の扇を二重にかざして踊る優雅な舞「扇おけさ」が伝えられています。扇おけさは、昔夏戸城主志駄氏の戦勝を祝って、夏戸の人たちが舞ったといわれています。

近年、民謡調にアレンジして、誰でも踊れるようにまとめられました。現在郷土芸能として、扇おけさ保存会によって受け継がれています。

夏戸扇おけさ

四ツ塚

夏戸城の本丸には、「四ツ塚」と呼ばれる塚があります。今は三つしかありませんが、四ツ塚というように、かつては四つの塚があったと思われます。四ツ塚は夏戸城が廃城になった時、鎧や兜、不用物などを埋めて築いたと伝えられています。



四ツ塚(昭和51年撮影)

馬洗池と白米伝説

詰ノ丸の南麓に馬洗池という小さな池があります。夏戸城の将兵が、ここで馬を洗ったといわれています。また、地元には昔伊奈胡城と戦った時、城の水源を絶たれてしまったが、城主はこれにひるまず、白米で馬を洗って水があるように敵をあざむき、戦に勝ったという白米伝説が伝えられています。

ほま畑

夏戸小学校跡(トキ分散飼育予定地)は、以前「ほま畑」と呼ばれる広い畑でした。昔、ここに夏戸城の馬場があったといわれています。

発行：夏戸城跡保存会